第１７回　和歌山県河川整備計画に係る委員会

平成２３年１月２６日（水）

議長

それでは、議事の２番目ですが、佐野川水系河川整備計画（原案）について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

では、引き続き説明させていただきます。

佐野川の資料１をお開きいただきたいと思います。前回２２年１０月８日にご審議をいただいた後、１０月から１１月にかけてパブリックコメントを実施いたしまして、本日その結果を受けた修正等を説明させていただきたいと思います。また、前回のご意見等に関するご説明も併せてさせていただきたいと思います。

では、少しスピードアップして説明したいと思いますが、まず前回のご審議でのご意見で、お手元の資料、説明補助資料のほう、スライドを使って説明いたします。

まず、本文の表現として「……発展し、……発展した」という表現の適正化ということで、修文をしております。具体的には「熊野信仰の中心地の一つとして栄え、中世には熊野速玉大社の門前町が成立した」という修文をしております。それが１点目です。

それからもう１つは、水質の話を前々回の宿題に対するご説明ということでさせていただいたところ、新宮蜂伏団地からの排水がどちらに入っているのかと。荒木川なのか木の川なのかと。それによって、水質の観測ポイントが楠橋でいいのか、木の川合流後のほうがいいのか、どちらがいいのかにかかわってくるということでございました。それに対しては、新宮蜂伏団地の排水処理施設は荒木橋の少し上流のところで、荒木川に対して放流がされているということを確認いたしました。ですから、水質調査としては荒木橋もこの下流ですし、楠橋は佐野川が合流してそのまた下流ということになりまして、この団地の排水を受けた後の地点で水質調査をしているということでございます。

もう１つ、取水、水質サンプルをとる際の潮位との関係でご助言をいただいていましたけれども、今回この後ご説明する数字もそうですけれども、観測地点に海水の影響がないように、満潮の時間は避けて取水をしております。この縦断図ですけれども、朔望平均満潮位はここですが、取水点は、確かに取水ポイントの水位はその下にあるんですが、取水

時の潮位はもっと低いときにとっていたということでございます。

水質調査結果ですが、前回７月の結果だけ、その後１０月、１２月と２回採水をしております。７月調査のときは、佐野川中央橋地点のＢＯＤが突出して高かったんですが、その後１０月、１２月では他の地点から突出するというような傾向はなくなってきております。そういう状況でございます。

それと、先ほどの川でも議論がありました、大腸菌群数ということでは佐野川本川の、青が中央橋ですけれども、中央橋が７月、１０月は高い状態でございました。また、一番下流の楠橋や佐野川の一番上のほうにある第一佐野橋、これで見てもそれぞれ第一佐野橋が緑、楠橋は赤ですけれども、季別の変動がわりと大きい状況が見てとれます。

一番最初にお示しした平成４年から１３年のＢＯＤの経年変化に、今回の３回の結果をプロットしたものがこれでございます。これで見ていただくと、平成７年や１０年が突出していたのかというと、今回調査したものも３．４が出たりして、どうも佐野川はＢＯＤで見ると水質がある程度の幅で変動するような川、そういう傾向があると見てとれるというように受けとめております。ちなみに、この青の１３年以前は冬場の採水、赤はそれぞれ季別に取っています。夏場にＢＯＤが高いのは何かという理由はなかなか突きとめることができなくて、もともと流量が小さい川ですので、何かそのときに、そういう物質といいますか、そういう水質のものが流れ込んだ、あるいは何かの事情でそういう水質になったとしかわからない状態でございます。

それから、パブリックコメントは１０月から１１月の３１日間にかけて行いまして、残念ながらと申しますか、得られた回答が１件でございました。１件というのが、草が生えないようにコンクリートを張ってほしいと。川の中の護岸とかにごみとか引っかかって汚いということと、刈っても刈ってもすぐ生えてくる。なので草が生えないようにコンクリートを張ってほしいということで、ご意見を１ついただいています。これに対して、堤防天端は今土ですけれども、舗装をしていきたいと考えているんですが、護岸は植物あるいは魚類、小さい魚が小さいすき間に入っていくような形にしたいということで、環境保全型ブロックを引き続き使っていきたいと思っていますので、コンクリートで草が生えないように張るということはちょっと対応できないと。ただ、草がぼうぼうに生えてしまった場合には、除草をするなどの対応をしていきたいということでございます。今でもガマとかが多く繁ったときには草刈りをしていまして、今現地を見ていただければ、草は全然繁っていない状態になっています。

佐野川は今のような点でございまして、資料２にご意見を受けた対応を整理させていただいておりますが、今ご説明したような内容でございます。資料３も同様で、資料４の１カ所の修正のみということで、本日お諮りしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

議長

佐野川についていかがでしょうか。何かご意見、ご質問ございましたらお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

資料５の原案は、今までの修正なり修文が全部加わっているものですね。

事務局

はい、そうです。

議長

だから、今日ご異議がなければ、資料５の原案を承認するということになりますが、よろしいでしょうか。今までの委員会、この会議で出ていましたものは、すべて資料５の中に取り込まれているというご説明です。資料６は参考資料ですか。

事務局

はい。ただ、参考資料は非公表でございます。

委員

今のお話、参考資料は非公表なんですか。ただ、ちょっと気になりましたのは、例えば先ほどの太田川の８ページにやはり地質図がございますよね。この参考資料のほうの１．２にも地質図があるんですけれども、隣接した地域なんですが、全然表現が違うんですよね。凡例を見ていただいてもわかるとおり、表現の仕方が随分違う区分になっているんですけれども、こういうものは統一したほうがよくはないでしょうか。

事務局

出典も違うところですね。

議長

こちら側は国土開発技術研究センター、こちら側は経済企画庁ですか。全国の地質図は公表されていないんですか。

委員

いや、昭和４９年に全国やっているんですよ。だけど、もう古いんです。

議長

４９年、大分昔ですね。

委員

だから、これしかないところと、もっと新しくできたところとあるんでしょう。

事務局

ここの佐野川でいえば、近畿地方土木地質図というのでやっていますので。

委員

新しいのがないのはもうこれでやらないと、全国どこでもカバーできない。

議長

それ以後更新されていないんですか。

委員

この図そのものは更新されていないです、経済企画庁のは。だけど、他のいろんなプロジェクトのときに、あるいは何かの調査でそれぞれの場所でされているのを、また新しく編集したりとか、そういうことはあるけれども。だから、全国はカバーできない。新しいタイプのものは。

委員

基本的に地質図というのは昔の工業技術院、今の産総研が全国調査しているんですよ。

それで、そこが恐らく一番ベースになっていて、そこをもとにしてこういった別のところで利用して使っているので、まず産総研の地質図をやってもらうと。ただ、それが、５万分の１というのは基本的に今調査して、全国ずっと回ってやってきているので、ある程度カバーしているんだけれども、全部はカバーはしていないんですね。そうすると、それよりも大きいスケール、粗いスケールというんですか、それがあるので、例えば８ページと１．２では、恐らくそれが違うんだと思うんですよ。要するにある程度大きい地質図でとってきたのが左側の８ページであろうと。だから、こっちのほうが粗いですよね。今回の太田川のほうがね。太田川というのは広い範囲をやっていますから、ある程度大きい範囲の地質図じゃないとできないと。恐らくこちらの右側のほうは、今回の佐野川はわりとピンポイントであったんじゃないかと思うんですけれども、ただそれは、頼むときに、工業技術院の原典を当たってくれというふうな方向でやってもらえばいいと思うんですけどね。恐らくいろいろ探して、より詳細なやつを探してきたと思うんですね。だから、今回の佐野川のほうが詳細と言えば詳細ですね、区分でいうと。

委員

区分でいうとね。ただ、表現は専門的じゃないというか、一般的な名称を使っていて。

委員

難しいのは、５万分の１の範囲で順番にやっていくでしょう。ところが、担当者が違うんですね。時代も違うでしょう。そうすると、表現も違ってきちゃうんですよ。だから、隣同士が合わないんですね。境界が合っても表現が合わないとか。その辺がまだまだ難しいところなんですね。非常に微妙な違いがあったりして。だから、お願いするのであれば、今言ったように工業技術院が発行していますからね。そこに当たってもらえばあるはずだから、そこでやるかですね。それと、土地利用図とか地質図で当たるかどうかということですね。こっちは土地利用図になっているからね、土地分類図か。本当は地質図だよね。土地分類図の中の多分、地質図……。

委員

いやいや、地質図は地質図ですよ。

委員

だけど、出典は土地分類図になっているんでね。

委員

昭和４９年は５種類ぐらいの調査をやっているんですよ。それぞれの地域、各府県単位で。それの２０万分の１の縮尺で。全国セットであるんですよ。

議長

昭和４９年は全国をカバーしているんですか。

委員

やっているんです。

委員

ただ、彼らがやっているわけじゃなくて、実際、工業技術院のデータをもとにしているんですよ。

委員

いや、調査はそのときには、例えば和歌山大学の先生とか奈良女子大とか、日本地理とか地質とか、そういう人が分担して。

委員

やっているけれども、多分そういう意味では一番正確なのは、産総研の地質図が全国をカバーしていますからね。それが一番いいと思いますね。

事務局

今いただいたような話、今後確認はしてみたいと思いますけれども。

委員

今後やるときに産総研が一番地質図を供給しているところですから、そこに５万分の１が全国出ているので、ないところもあるけれども、それでなるべくやってくださいという

ふうに指定するんでしょうね。ただ、コンサルはコンサルである程度調整はしていると思うんですよね。一番わかりやすいところをとってきていると思いますけれども。一番スケールのいいもの、見やすいものと思うんですけどね。

委員

統一的にはちょっと難しいですね。

議長

ただ、私が思うのは、佐野川のやつは出典は書いてありますけれども、いつのものかというのが書いていないので、国土開発技術研究センターというんだから、名称からして、これは多分昭和４９年よりは古いということはないでしょう。しかし、最近は「開発」を取っていますから、あれはいつごろ取りましたかね、もう１０年ぐらいになりますか。

委員

ただ、こういうふうに全部ありますけれども、全部出典は産総研だと思いますよ。

議長

もとはね。

委員

そんな１カ所、１カ所、測量の人たちがやるとは思えないしね。

議長

もちろん、そうですよ。

委員

でしょう。たから、そちらのほうの産総研の原典に戻ったほうがいいと思うんですよ。それが本当だと思う。そこをアレンジしたりしている。天気予報と一緒ですよね。気象庁がデータをとっていて、ということだと思うんですね。

議長

私が思うのは、産総研のものがもちろんベースになっているのはよくわかりますけれども、それをこの流域に限って少しアップデートしたものがあれば、アップデートしたものを使ったほうがいいだろうと思うんです。その場合に、アップデートしたものであるということがわかるようにしておかないとね。これはいつのものかわからんというのではちょっとぐあいが悪いだろうというのを思っただけなんですけれども。

事務局

よく確認の上、調べさせていただきます。

議長

確認していただいて、できるだけ正確な、最新のものにしてもらうのが一番いいのではないかと私は思うんです。

他はいかがでしょうか。それでは、ただいま地質図のことに関して出ましたので、それは確認していただくということですが、それ以外に大きい修正点はないようでございますので、今の点に関しましては私が最終的に確認するということにしまして、この資料５の原案を承認するということでよろしゅうございますでしょうか。

（「はい」の声あり）

議長

どうもありがとうございます。それでは、そういうことにしたいと思います。

それでは、今の地質図のチェックをよろしくお願いいたします。

事務局

わかりました。

―― 了 ――